

休眠預金等活用事業（2025年度第2回）
「家庭や学校生活に不調和が生じている子どもやユースの生きづらさを解消する
社会的処方モデル構築事業」 実行団体申請一覧

公益財団法人 たかまつ讃岐てらす財団
2026/07/06公開

公益財団法人たかまつ讃岐てらす財団が実施する、休眠預金等活用に基づく「家庭や学校生活に不調和が生じている子どもやユースの生きづらさを解消する社会的処方モデル構築事業」にご応募いただきました申請団体の団体名、所在地、事業名、事業概要を公募要領p.16「審査結果の通知等」に基づき、公開いたします。
 今後、同じく要領p.13「公募期間・スケジュール」に基づき選考を実施し、実行団体の内定確定後に公表いたします。

（全7団体・順不同）

No	団体名	事業名	所在地
1	一般社団法人もも	子ども・若者と取り組む社会的処方と支援再構築の実践 （副題）ひとりで抱えないための入口と余白づくり	香川県高松市
事業概要 本事業は、家庭や学校との関係に揺らぎを抱える子ども・若者が、安心できる大人や場と出会い、自分のペースで必要な支援や地域資源につながっていくための地域モデルを構築する事業です。子ども・若者の困りごとは、生活、学び、健康、家族関係、進路、人間関係、疲れやすさ、孤立感などが重なり合って現れます。本人自身が状況を整理し、安心して言葉にできる関わりを地域の中に整えることが重要です。本事業では、こうした複合的な困りごとを生活全体の中で受け止め、相談、自己理解、生活・セルフケア、体験活動、地域資源への接続を組み合わせた伴走支援を行います。18歳以降の進学、卒業、進路変更、休学・中退、就労準備などの若者に対し、学校、家庭、福祉、就労の制度のはざまをつなぐ支援を行います。地域の民間相談室機能として、安心して相談できる入口と、自分のペースで次の一歩を考えられる余白を整えます。また、団体内にリンクワーカーの視点と実践力を育成し、子ども・若者の状態、関心、安心できる関係、必要な配慮を丁寧に見立てる力を高めます。地域資源を本人に合う形で活用できるよう、受け入れ側との調整、同行、接続後の状況確認を行い、支援の判断力、調整力、伴走力を団体内に蓄積します。ケース検討、支援記録、振り返りを通じて実践を整理し、白書やフォーラム等で地域に共有することで、子ども・若者を地域全体で支える仕組みの形成を目指します。			
2	一般社団法人グリーティングエナジー	声からはじまる高松型社会的処方モデル構築事業 （副題）ラジオ・一軒家型拠点・リンクワーカーによる子ども・ユースの孤立防止事業	大阪府大阪市
事業概要 高松市内の空き家を活用し、「おうちスタジオ」を設立する。まず、不登校や引きこもりのユース、保護者、支援者などへのヒアリング調査を行い、現場の声や課題を把握する。その結果を反映したラジオ番組を制作・放送し、「顔が見えないからこそ話せる」環境を生かして、本音のメールや匿名の手紙などによる声を集める。子どもやユースが思わず聞きたくなる音楽や興味・関心に寄り添った内容、行動を起こしてみようと思える問いかけを番組に組み込み、自ら発信できる機会もつくる。 また、SNSを活用して番組の魅力や内容を発信し、ラジオを身近に感じてもらうとともに、radikoアプリを使った聴取方法も案内することで、誰もが気軽に参加できる環境を整える。地域の子育て支援関係者や専門家にも出演してもらい、ラジオ番組そのものを一つの居場所として育てていく。さらに、「運営者と話してみたい」「実際に会ってみたい」と思える関係づくりを継続し、リアル参加やZoom参加など多様な入り口を整備する。お話しや交流会、イベント、ものづくり体験などを通して、人となつがり、友達や仲間、相談相手と出会える「もう一つのおうち」のような居場所を地域とともに育み、最終的には引きこもりや不登校の子どもたちが安心して足を運び、人とのつながりの中で自分の存在価値を感じられる場所づくりを目指す。			
3	一般社団法人生理の保健室協会	学校の外にも届く「まちの思春期保健室」～手元からはじまる居場所づくりモデル事業～ （副題）多世代交流と社会的処方を育むリンクワーカー養成プロジェクト	香川県高松市
事業概要 本事業は、話すことから始めない、子ども・ユースの低圧な居場所づくりである。 ①地域サロン運営 下記、2軸の活動を通して、子ども・ユースが多世代とつながり、必要に応じて社会資源へ接続される仕組みをつくる。 キーとなるのは「手元」であり、布ライナーづくり、月経ボードゲーム、健康マージャン等の手元を媒介にした活動を通じて、会話や自己表現を前提とせず、黙っていても同じ場にいられる入口をつくる。月経や思春期の体・心・性の不安を安心して学び、言葉にできる機会をつくるとともに、健康マージャンを活用して多世代が自然に交流できる場を生み出す。健康マージャンには、牌を並べる、順番を待つ、同じ卓を囲むという構造があり、会話を強制せずに関係性を育てられる点に特徴がある。同世代との関係に不安がある子ども・ユースにとって、多世代との低圧な関わりは安心した社会参加の入口となる。 ②手元つながりリンクワーカー育成（Hands-on Link Worker） 子どもの小さな変化に気づき、必要な支援機関や社会資源へつなぐ人材を育てる。 ・思春期の体の変化、月経などに関連する話ができるリンクワーカー ・健康マージャンなどを通した多世代交流を推進できるリンクワーカー 助成終了後も、行政と連携し、人材・教材・運営ノウハウ・ネットワークを地域に残し、継続可能な社会的処方モデルを目指す。			

No	団体名	事業名	所在地
4	特定非営利活動法人未来ISSEY	子ども応援地域エコシステム構築事業 (副題)～病気をきっかけとした社会課題を未然に防ぐ社会的処方モデル～	香川県丸亀市
事業概要 本事業は、今困っている難病・長期入院の子どもと家族（3年間で120世帯・延べ500名を対象）を「応援アクション」で直接救いながら、連鎖する不登校・家庭崩壊・経済的困窮を未然に防ぐ「社会的処方ネットワーク」を香川県内に構築する事業である。新規取り組みの高松サテライトと応援BOOKが、支援の届かない空白を埋める。 ①高松サテライト機能の整備・月1回定期開催：既存の高松市小児慢性特定疾病等自立支援事業を発展させ、高松市内で月1回の対面型サテライトを定期開催する。わははネット等の地域拠点を活用し「相談できる・経験者につなげられる・一人でないと思える」入口を整備し、地域資源と家族をつなぐリンクワーカーを配置する。 ②応援BOOK（地域共通支援ツール）の作成・配布：病院・学校・行政・保護者・企業が共通して使える地域の支援ツール。病気発覚時から必要な情報を1冊に集約し支援者と当事者をつなぐ。企業PR枠で収益性を持たせ、助成終了後も当法人が自律的に更新できる出口戦略の中心に位置づける。			
No	団体名	事業名	所在地
5	特定非営利活動法人親の育ちサポートかがわ	ユニバスつながるプロジェクト (副題) 孤立する子ども・ユースを地域で支える伴走支援事業	香川県高松市
事業概要 本事業では、不登校やひきこもり等により生きづらさを抱える子ども・ユースとその家族を対象に、居場所づくり、訪問支援、保護者支援を組み合わせた地域伴走支援モデルを構築する。大学生や地域住民によるユニバスサポーターと支援を調整するコーディネーターを中心に、子どもの孤立を防ぎ、人や地域とのつながりを取り戻せるよう支援する。具体的には、①子どもが安心して過ごせる居場所づくり、②家庭訪問や外出支援を通じて居場所や地域活動等につなぐサポーターによる伴走支援、③保護者相談や親の会による保護者支援を実施する。子どもが安心できる環境の中で、自分のペースで次の一歩を踏み出せることを目指す。 1年目は、サポーターが安全に家庭訪問や外出支援を行える体制を整備するとともに、コーディネーターが保護者や子どもとの関係構築を進め、既存の居場所の充実を図る。2年目は、高松西地区に新たな居場所を開設し、サポーターによる家庭訪問や外出支援を試行的に実施する。また、地域資源や進路情報をまとめた情報冊子を作成し、子ども・ユースも取材や編集、イラスト制作等を通じて参加することで、社会とのつながりや役割を持つ機会を創出する。3年目は、高松南地区にも居場所を開設し、支援対象者やサポーター数を拡大する。保護者支援、居場所、訪問支援を一体的に実施することで、地域全体で子ども・ユースと家族を支える持続可能な支援モデルの構築を目指す。			
No	団体名	事業名	所在地
6	発達にじいろ広場自由っこ	生きづらさを抱える子どもたちが「感覚の苦手対策と自分の強み」を見つけ、安心して好きなことに打ち込む笑顔が輝く高松市へ (副題) 感覚特性対応と居場所提供事業	香川県高松市
事業概要 この事業は、不登校をはじめとする家庭や学校との不調和を抱える子どもたちが、自分の「苦手と好き」を知り、自分に合った学び方や過ごし方を主体的に選んで生き生きと過ごせるように支援するものである。学校との不調和の背景には、感覚過敏（音や光などの刺激を強く受け取ってしまう）や、体や脳の状態によって起こる感覚探求（じっと座れずうろうろしたり、椅子を揺らすなどの行為）などの感覚特性と、学校環境とのミスマッチが存在する。しかしその知識がないために、理由がわからず苦しんでいた、苦しみを周りに理解してもらえない子どもや、子どもが抱える不調和への焦りや子どもの将来への不安を抱える保護者が存在し、学校側も知識不足により環境設定に踏み切れない現状がある。そこで子ども本人や保護者、学校に向けて感覚特性についての周知や対策グッズ体験会などを行い、自己理解や環境設定の大切さを知ってもらうとともに、子どもの最も身近な環境となる保護者と学校や園を支援するしくみを構築する。また、学校という枠の中で人との関わりをもつのが難しい子どもたちが、特性を理解され、安心して自分の興味のあることに打ち込めるような居場所を提供する。子どもたちが仲間を見つけ周りから受け入れられる経験をする、将来へのイメージのきっかけとなるような大人と出会い、多様な体験を通して自分の好きを見つけ、強みを伸ばし社会に繋がることを目的とする。			
No	団体名	事業名	所在地
7	高松ワークショップLab.	豊かに過ごすための文化芸術を活用した居場所・表現の場の構築事業 (副題) 文化芸術を活用したアトスペース構築事業	香川県高松市
事業概要 家庭や学校生活に不調和が生じている子ども・ユースを対象に、文化芸術や表現活動に継続的かつ日常的に触れることのでき、地域のひらけた社会や文化、様々な人が集えるヒエラルキーの強くない、水平的な横のつながりや友人関係を基礎における、アートをを用いた社会的処方を行うことのできるアートセンターという場所を現代社会の中に確立させる。 いずれは常時開設を目指す、初年度は月1回程度の定期開催を基本とし、演劇、身体表現、音楽、対話などを通して、自分自身や他者と出会う機会を提供する。 また、放課後支援や地域部活動機能、表現の場の提供、文化芸術に関わる進路相談なども視野に入れながら、安心して立ち寄れる環境を整えていく。 そして、地域の支援機関と連携しながら、学校や家庭以外の人との出会いを生み出し、多様な学びや活動へつながる機会を提供する。 主に実施する内容としては不登校児童支援【初年度は、平日（主に）火曜日 13：00～15：00開設】、ワークショップ開発、実施【11/13、12/8、1/12、2/12、3/12 プレ開設】、表現の場の提供及び文化芸術に携わる進路相談などを含む相談窓口設置。 【LINEなど情報交換のできるツールやオンラインも活用】、 不登校児童が学校へ行っている子どもたちとも交流できる場として放課後支援や地域部活動機能なども検討。			